



間伐材を使ったカトラリーづくり教室



民有林の間伐作業

高知県の西部を流れる四国最長の川、四万十川は、本流に大規模なダムが建設されていない清流として知られています。

四万十樵塾は、この四万十川流域の環境を保全するための一助として、流域面積の約8割を占める森林、中でも手入れの行き届かない人工林の整備を中心に、平成14年から活動している森林ボランティア団体です。



間伐材でつくったカトラリー

**四万十川と森林**

四万十川流域の森林面積は189平方キロメートルで、流域面積の83%を占めています。その森林の内訳を見ると、昭和30年代までは天然林の割合が多かったのですが、その後スギ・ヒノキの植林が

推進されて比率が逆転し、現在は7割が人工林となっています。

四万十川の清流は、この森林があるがゆえに守られてきました。しかし、近年、木材不況や農山村の過疎化などにより、適正な管理がなされず、放置された森林が荒廃しているケースが見受けられます。

四万十樵塾は、このような森林に間伐など人の手を入れることで蘇らせ、四万十川の清流を守りたいという思いから設立されました。

**チエーンソーが使える本格的ボランティアを**

高知県と流域5市町が出資し、行政・民間団体と連携・共同して四万十川の保全と地域の振興をはかるための組織「四万十川財団」は、流域の人工林の手入れが行き届かない



焚き火とダッチオーブンの集い



筆山公園の整備作業



「ふれあいの森」の間伐作業

状況を改善するために、ボランティアの育成に着手しました。これが平成13年から開催されている「四万十樵養成塾」です。

ボランティア初心者の場合、間伐を手鋸で行うことが多いのですが、この養成塾の目的は、広大な流域の間伐を行うため、チェーンソーが使える本格的なボランティアを養成することでした。そして平成14年12月、卒業生らが集

## 「ふれあいの森」をフィールドに

まっつ「四万十樵塾」が発足しました。

四万十川流域における間伐は、四万十森林管理署と「ふれあいの森」における森林整備等の活動に関する協定(市ノ又山ふれあいの森)を結んで平成16年度から始まりました。平成19年に協定を更新

合計約22ヘクタールのスギとヒノキの人工林をフィールドとして活動しています。

四万十樵塾の活動の基本は、①安全②面白い③和気

## 息の長い活動めざして

また、当会の出発点である「四万十樵養成塾」にもスタッフとして参加し、森づくりを担う人材の育成にも取り組んでいます。

この他にも、市街地の公園(高知市筆山公園)や、高齢化等で手入れができなくなった民有林の間伐を行ったり、間伐材を使ったカトラリー作りや焚き火とダッチオーブンの集いなどのイベントを通して地域住民と交流したりするなど、楽しみながら多彩な活動を展開しています。

あいあい④独立⑤継続の5か条です。また、「樵の道」という技術向上マニュアルのつとめて、活動の中でスキルアップを図っています。

当会は発足して8年になります。継続は力なりと言われるように、地道な整備活動を続けてきたことが、流域の環境保全に役立つていると考えています。今後は活動の幅を広げるためにも、ブログ等を通じた情報発信を積極的に行ない、森林づくりに関心を持つ人々との出会いを広げていきたいと思っています。

## 四万十樵塾

- 会員数 14人(平成22年10月現在)
- 森づくり活動フィールド  
高知県幡多郡大正町日ノ平市ノ又山(市ノ又山ふれあいの森)
- 活動日 第1土曜日・日曜日
- ホームページ <http://www.39kochi.com/kikori/>